

＜ もくじ ＞	
1. 2016年度定時総会・第15回大会のお知らせ	1
2. 第2回研究会合同イベント報告	2～3
3. 研究会からのお知らせ	4
4. 各研究会の概要報告	4～5
5. 「大磯コミュニティ・カレッジ」講演会のご案内	5
★ 事務局からのお願い	6

1. 2016年度定時総会・第15回大会のお知らせ

日程：2016年6月5日（日）（第一部《総会》10時～、第二部《大会》11時30分～）

会場：お茶の水女子大学 本館3階306室

今年度は、一般社団法人シニア社会学会の第3期3か年計画の初年度に当たります。そこで、本学会では3か年計画の研究活動のテーマを、「持続可能な超高齢社会」とし、その第1年度の大会（6/5）のテーマを、「現代日本の格差と貧困」としました。現在私たち自身が出発点として踏まえるべき現実と、それがどのようにして生じてきたのかをしっかりと見据えることによって、これから3年をかけて「持続可能な超高齢社会」をめざす方向性を見定めていきたいと思っております。

基調講演を、駒村康平さん（慶應義塾大学教授）にお願いしております。経済学がご専門で、現代日本の格差と貧困の現状とその背景について詳しくお話しいただく予定です。その後のシンポジウムとともに、どうぞご期待ください。

大会テーマ：『現代日本の格差と貧困』

◆ **基調講演**（13：15～14：35）

講師：駒村 康平（慶應義塾大学 教授）

テーマ：現代日本の格差と貧困

◆ **一般報告：地域での活動から**（11：30～12：15）

長田理事の司会で、佐藤敬、白木里恵子、駒宮淳子の会員各氏からご報告をいただきます。

◆ **シンポジウム** テーマ「現代日本の格差と貧困」（14：45～16：20）

袖井会長の司会進行で、伊藤憲祐（あやめ診療所院長、会員）、平井葉子（パワフルエイジング研究会、会員）、川村匡由（当学会理事、武蔵野大学名誉教授）、駒村康平（慶応大学教授）の各氏にパネリストをお願いし、意見交換、フロアー討論を行います。

◆ **懇親会**（17：00～18：30）

会員、非会員を問わず各地域で活躍している方々との意見交換や、いろいろと参考になることも率直に聞ける場ですので、是非ご参加ください。

2. 第2回研究会合同イベント「ところ定まれば、ころ定まる “丁々発止語り合う会” コミュニティ学のススメ」報告

「コミュニティ学」は濱口研究会の集大成



2016年3月26日(土)14:00~16:35に日本労働者協同組合連合会8階会議室にて、参加者数40名(会員32名、非会員8名)で開催されました。

一般社団法人シニア社会学会の5つの研究会による合同イベント第2回目となります。昨年第1回は長田研究会の「福島の問題」を取り上げ、今回は研究会の中の最老舗、濱口研究会が担当してテーマは「コミュニティ」でした。素材は同研究会が「シニア社会のリテラシー研究会」の集大成として3月に上梓した

ばかりの『コミュニティ学のススメ』(濱口晴彦編著、株式会社日本地域社会出版刊)。

袖井会長は開会挨拶のなかで、「国も、自治体もお金がなくて、コミュニティが社会保障等生活を守るのに頼りにされる」とコミュニティの重要性に言及された。

プログラムは濱口座長による問題提起からはじまった

「コミュニティの基本的な要件は人とひとのつながり、関わりを言っている」「今の日本は政治的な観点からは憲法第9条が脅かされ、社会的問題として少子高齢化と人口減少、エネルギーの問題、そしてグローバル化が進み経済的・社会的な格差の問題がコミュニティに影を落としている」「ひとは生きている限り生き続けるゆえにコミュニティを必要とする、コミュニティがすべてを支えている。そこでは生命と生活の乖離が生じている」「価値判断の異なる人が協同して知恵を働かせ、先記のような課題を克服し発展させることでコミュニティを持続できる」…という問題提起があった。

司会の碓正義さんは、いみじくも「先生の話は後ろ側に膨大な知識があり、消化して要約するのが難しい」と吐露された。その意味で上記の趣旨要約も怪しいことになるけれど…。

さて、碓さんは、コミュニティのエッセンス「ところ定まれば、ころ定まる」を「つながる場所があれば、つながる力が生じる。必要なのはつながる力だ」と簡明に解釈された。

ハイライトは会員4人の現場からの報告

駒宮淳子さんの報告「ところ定まらぬ避難者の居場所づくり」。東日本大震災にいてもたってもいられず一人で始めた避難者の支援活動。避難者に寄り添い、4年間の「ふるさと交流サロン」活動を経て、自立支援の「結の会」に発展させてきました。

佐藤敬さん発表の主題は「『よそ者』になった団塊サラリーマン」。定年再雇用の60歳から九州の地方都市に「よそ者」の「地域ブランドマネージャー」として単身赴任し、チャレンジした報告。素のままの自分をだして、個人と個人で向き合ったからこそ地域に受け入れられた体験。よそ者ならではの強みと弱み、地域コミュニティの多様性・重層性など教訓に富んだ聞きごたえのある発表でした。

杉山由美子さんの現場からの報告は「『ワーカーズコープ』、『ナルク』によるコミュニティへの働きかけ」。著名で活動実績も豊富な2つの団体へのフリーランサーならではのインタビューに基づく報告。社会的弱者になりがちな人たちのために「共に働き、ともに生きる 地域をつくる」をモットーにしてきたワーカーズコープ。ナルクの特徴は時間預託制。会員同士の交流も盛んだが、ナルク水戸支部で多いボランティア活動は車の送迎、家事手伝い、草むしり等。いずれも、定年後地域に溶け込んで活躍するアクティブシニアの現状が伝わってきました。

福元公子さんは「地域社会を支える新たな役割としての介護保険制度と成年後見制度の現況」報告。本人の判断能力が精神上的の障害により不十分な場合に本人を法的に保護し、支えるための制度。財産管理(不動産、預貯金、保険契約、定期的な収入等)と身上監護(介護等福祉サービス、施設入所、医療・入院、税金の申告・納付等)を行う。本人を中心に輪を囲むように配偶者・家族、親戚・友人、遠くにいる家族・同僚や上司・近隣者・そして専門家が護送船団を組むように保護し支える制度とし

てコンボイの構造が説明された。

濱口座長は4人の事例報告を、駒宮さんの場合はコミュニティの「甦生」、佐藤さんは「創生」、杉山さんは「維持」、福元さんは「克服」への取り組みであると分類された。

4つの研究会代表コメントが問題の本質を深堀

合同研究会を象徴するように、報告に対応する形で4つの研究会の代表からそれぞれコメントがあった。「社会保障研究会」からは袖井会長が代表コメントとして登場。認知症等判断能力が不十分な人が増え、法律面では司法書士によるリーガルサポートセンターもあるが多くの人困っていると成年後見制度を評価された。他方で「成年後見制度でできないことは何ですか？」と質問された。時間不足で意のある所を尽くせなかった福元さんは待っていましたとばかりに、手術の場合、居住用不動産管理等制度の曖昧部分について補足説明をされた。質問で上手く聞き手の疑問を解くのもコメントの大事な役割と教えられました。

「災害と地域社会研究会」からは長田座長が代表コメント。コミュニティとは何かとはっきりした解答が出されないのが現代社会。構造が変化して人のつながりがどうなるのか、克服すべき生活課題も多岐にわたる。それでも関わらざるを得ないのがコミュニティの問題なのだと諭された。駒宮さんの事例は、災害による避難問題で異質な人と対立を解決し共生状態に到達しても、また次の問題が発生する循環の中でコミュニティを捉えていると評価された。長田座長には福島の実験的取り組みの研究成果を踏まえたコメントも頂きました。「『ところ定まればところ定まる』が脅かされる要因の一つが災害、災害でところも人の心も動揺します。被害者の尊厳に配慮し、我々も加害の一部であると自問自答しながら考えて行かなければならない」と。

「シニアのICT研究会代表の森さんは「よそ者」に注目された。よそ者ながら地域に溶け込み、強み、弱みを自覚し、周到的準備で自前のコミュニティを創り上げた佐藤さんの活動過程に対して独自の解釈を加えながら、さらに深い理解へと誘い込んでくださいました。

「ガバナンス研究会」の代表コメントは川村座長でした。社会保障・福祉が専門であり、本日の報告関係部署とも縁の深いところからのコメントでした。コミュニティとは地域社会で、5分以内の所が生活の根拠地となっている。市民社会組織はアソシエーションだと述べられた。これからのコミュニティは行政に頼らず、自らが参画し共同して地域を動かすようであればならない。その実現がシニア社会学会の課題であり、進めるべきはコミュニティワークであるという。そうすればコミュニティは終の棲家になるのだという主張でした。

残された短い時間の中、会場からも3人の貴重なコメントがありました。

濱口座長の総括

コミュニティは既に日常用語となっています。コミュニティを呑み込んでいるのがアソシエーションでその状態をブレンドコミュニティと呼ぶことができます。アソシエーションなコミュニティは集団であっても個を許容しているのが特徴です。Aging in Placeという言葉があります。今いるところで老いて行くという意。色つや、ぬくもり、輝きがあるコミュニティを創っていけば、そこがAging in Placeになります。

反省して次回につなげる

アンケート結果(40名中24名の回収)によればイベントの全体評価は「満足」が18名中13名。「濱口座長の問題提起」、「執筆者4名の現場からの事例」、「各研究会代表によるコメント」のそれぞれが「関心」を呼びかつ「印象に残り、参考になった」といい評価を得ていました。各研究会座長による的確なコメントも成功に導く要因となりました。問題は運営上のこと。「発表及び質問の時間が圧倒的に短いので丁々発止の議論になっていない」が典型的な意見。「マイクが使える会場は必要、全然聞こえなかった人がいた」も反省点。

急きょ開催した懇親会は参加者相互の懇親と親しく意見交換ができる場として効果的でした。

研究会合同イベントは、周到的事前準備と発表・討議の適切な時間配分、そして学会挙げて協力する体制が大事なことを再確認させてくれました。(文責 安田)

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第33回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年5月23日(月) 15:00~18:00
(今回は月曜日の開催ですので、ご注意ください。)
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：①研究会のこれからのテーマ及び進め方についての意見交換
- 4) 参加費：300円

(島村記)

(2) 第31回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年5月25日(水) 18:30~20:30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館5階第5会議室
 - 3) 報告者：浅野 幸子(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、
専修大学非常勤講師)
 - 4) テーマ：地域の防災力・持続可能性とジェンダー構造
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

(3) 第19回ガバナンス研究会開催のお知らせ

- 1) 日時：2016年5月31日(火) 14:00~15:30
- 2) 場所：地域サロン「ぷらっと」(JR武蔵境駅北口徒歩5分)
- 3) テーマ：「衆議院補選の結果を考える」
- 4) テキスト：なし
- 5) 参加費：500円
- 6) 申し込み：m_kawa@musashino-u.ac.jp、携帯090-3102-8446(川村理事)

(4) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

*研究会は休会中であり、再開が決まり次第改めてお知らせします。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第31回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2016年3月23日(水) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：①3月26日(土)研究会合同イベントの最終確認 — 役割分担、プログラム、レジュメについて確認した。
②150冊の代金回収について確認した。
③研究会次回以降の進め方について意見交換を行なった。

(島村記)

(2) 第32回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2016年4月18日(月) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：①濱口座長のレクチャー：『「コミュニティ学のスズメ」再論』
レクチャーは配付資料によって行われた。時代、環境が変化して行く中で、コミュニティはますます大切になって来ており、「スモール・イズ・ビューティフル」というキーワードが提示された。
②著書の代金回収及び3月26日(土)研究会合同イベントの会計報告。
③研究会の今後の進め方について意見交換を行なった。

(島村記)

(3) 第30回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2016年3月29日(火) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館5階第5会議室
- 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学大学院文学研究科博士課程)
- 4) タイトル：「地方における地域社会の災害復興と地域の存続戦略—東日本大震災津波前後の大槌町における災害過程を中心に—」

報告者の野坂 真さん(本学会会員)は、東日本大震災後の岩手県大槌町の復旧・復興過程を丹念に継続調査し、5年間にわたって、現地の人とともに「安渡地区防災検討会」、「安渡地区アーカイブ(生きた証プロジェクト)」にも参加して復興に向けた活動にも取り組んできました。この時点で、博士論文執筆に向けてこれまでの調査研究を整理する段階に至り、今回の報告では、その基本的方針と分析枠組みについてかなり詳細に報告されました。

基本的には、地域社会を、災害に対する「脆弱性」と「復元力」という二つの面から分析しようとしています。つまり、国や県のマクロレベルでの政策が、災害前に進行していた地域社会の変動過程ばかりでなく、災害後の復興過程にも大きな影響を与えていることに注目し、それが地域のミクロレベル、メソレベルでの復興への動きをどのように促進したり、逆に妨げているのかを、社会学の立場からつぶさに分析することによって、地域の「脆弱性」と「復元力」を明らかにしていくことができるという分析枠組みです。その際、地域社会はつねに周辺の地域社会との産業、文化、交流に関する機能的関係の中で、維持存続を図っている面があることを念頭に、人的ネットワークや共同イベントなどの事例を分析していくとともに、比較研究対象として、宮城県気仙沼市の調査をも手掛けています。枠組みの整理について若干の質問もありましたが、緻密な労作であることは間違いなく、その成果がまとまるのが期待されます。(長田記)

(5) 「大磯コミュニティ・カレッジ」講演会のご案内

濱口副会長が発起人として立ち上げられ、当学会が後援する表記講演会の第四期プログラムで濱口副会長及び会員4人の方が講演されますので、ご案内致します。

1) 濱口副会長の講演

第11回日 時：2016年6月2日(木) 14:30~16:30

テーマ：コミュニティ学のススメ

第12回日 時：2016年7月7日(木) 14:30~16:30

テーマ：コミュニティ文学の可能性

2) 会員4名の講演(演習)

第13回日 時：2016年8月4日(木) 14:30~16:30

演習・『コミュニティ学のススメ』の実践

報告者とテーマ：佐藤敬さん—事例報告「団塊サラリーマンのコミュニティズ作り」

報告者とテーマ：駒宮淳子さん—事例報告「ところ定まらぬ福島原発災害避難者の居場所づくり」

第14回日 時：2016年9月8日(木) 14:30~16:30

演習・『コミュニティ学のススメ』の実践

報告者とテーマ：杉山由美子さん—事例報告「ナルク」「ワーカーズコープ」によるコミュニティへの働きかけ

報告者とテーマ：福元公子さん—事例報告「地域社会を支える介護保険制度と成年後見制度—コンボイの視点から—」

3) 会 場：JR大磯駅前のエリザベス・サンダース・ホーム地域交流スペース

4) 申込み・問合せ：電話0463-61-0476(こみゆにてー・パティオかりん・富山氏)

5) 参加費：1回 1,000円 (島村記)

<事務局からのお願い>

★総会・大会への出欠ハガキを4月27日ご送付いたします。出欠の有無を早急にお送りください。とくに総会にご欠席の方には、委任状と総会の4つの議案への賛否を示していただく欄がございますので、そちらへのご記入もお忘れのないようお願いいたします。また、ときにご自身のお名前のご記入のない方がおられます。くれぐれもご注意ください。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>